



立場の違いを越えて理解する

死刑について考えてみませんか

東京拘置所のそばで死刑について考える会「そばの会」

東京都荒川区南千住一―五九一六―三〇二
<https://twitter.com/AyaseSobanokai>

紛争の原因

正月に能登地震が発生し、ウクライナやガザの情報が少なくなりましたが、毎日兵士や市民、中でも多くの子供たちが命を落としています。その他にもアフガニスタン紛争、シリア内戦、イラク内戦：などがいまだに続いており、世界中で尊い命が失われています。

紛争が起こる原因をまとめると

- ・ 宗教上の争い
- ・ 土地や資源の奪い合い
- ・ 権力者の利害関係
- ・ 文化や民族性の差異
- ・ 政治的信条の差異
- ・ 差別

などがあげられています。

簡単に言えば、自分たちと価値観が違う人、対立する人は殺してもかまわないという発想から来ています。国や地域のトップに位置する人(たち)の扇動があるからでしょうが、その扇動に乗せられる素地が人々にあるからだと思います。

日頃からどのような立場の人にも例外なく人権があり、人を殺してはいけないという価値観に立っていれば、意見が異なっても、殺し合うほどの事態は避けることができるのではないのでしょうか。

死刑制度の矛盾

死刑という制度は、大きな犯罪(凶悪事件)を犯した者は殺していいという制度のことです。つまり理由があれば人は殺

していいという制度です。理由などトップの意思で変えられたり、多数決という手段で、決定されてしまいます。証拠もねつ造され、後で冤罪とわかった事例が多くあります。残念ながら日本は死刑制度を堅持し、何人も命を奪ってきました。

大きな犯罪イコール多数の人を殺害するということなら、先の戦争で他国の何百万という人の命を奪ってきた日本軍人、それを指導した人のほとんどは死刑に問われませんでした。領土を広げるために他国を侵略した日本軍の最高指揮官も、原爆投下を命じ一瞬にして数十万人の命を奪ったアメリカ大統領も、罪に問われませんでした。

紛争をなくすために

戦後我々は日本国憲法において戦争はしないと宣言しました。その宣言を実のあるものにするために、対立する人々、地域・国とも交流し、お互いの立場を理解することが必要です。

死刑をなくせば、紛争や戦争がなくなると、一足飛びにはいかないでしょう。

しかし、少なくともどんな人の命も、つまり価値観の異なる人であっても命を奪い合うことはしない、まずは命を大切にすることです。そして同じ人間であることを認め合い交わりを持つことが、殺し合いを避けるために必要なことではないのでしょうか。(KAN)